

会告

第 23 回（2019 年度）認定輸血検査技師試験の結果

令和元年 10 月 21 日

認定輸血検査技師制度
協議会 会長 岡崎仁
審議会 会長 加藤栄史
試験委員長 加藤栄史

本試験制度は、一次試験が筆記試験とし、二次試験が実技試験とした。また、二次試験受験資格者は一次試験合格者とした。さらに、実技試験の採点方式も、加減法であり、以前からの実技試験で大減点とされていた問題（血液型判定、可能性の高い不規則抗体など）を、一次試験および二次試験での必須問題とし、必須問題を全問正解することを合格の条件とした。また、必須問題は配点がなく、必須問題以外の問題を採点した。本年度は、試験制度が変更され 3 年目であり、受験者には周知されていると考える。

【1】 一次試験（筆記試験）

1. 受験申請者数：274 名

実受験者数：267 名（辞退者 5 名、欠席者 2 名）

2. 試験結果

1) 平均点：64.4 点（最高点 91.2 点、最低点 32.7 点）

2) 合格者数：130 名（合格率 48.7%、130 名/267 名）

・ 新規受験者：95 名（合格率 58.7%、95 名/155 名）

・ 再受験者：39 名（合格率 34.8%、39 名/112 名）

3. 試験内容と講評

認定輸血検査技師制度第 23 回一次試験（筆記試験）は 6 月 22 日（土）、ベルサーチ神保町（東京）を会場に行われた。試験時間は 2 時間で、マークシート問題と記述問題とし、内容は輸血医学の基礎、輸血検査（基礎、血液型検査、不規則抗体検査など）、輸血に関連する臨床、計算問題などとし、症例問題として血液型判定、可能性の高い抗体については必須問題とした。難易度は昨年的一次試

験とほぼ同じで、平均点は 64.4 点と昨年の平均点 (67.2 点) と同程度であった。ただし、血液型判定や可能性の高い抗体同定など、輸血検査で誤りが許されない問題 (必須問題) に対して 33 名 (12.4%) が不正解であった。ただし、合格得点であったが必須問題が不正解であった受験者が 3 名のみであった。特に、今回は、点数が低い受験者に必須問題の不正解が目立った。

【2】 二次試験 (実技試験)

1. 受験者数

- ・ 申請者 205 名で、欠席者 0 名で、実受験者数は 205 名であった。
- ・ 実受験者 205 名の内、一次試験合格者が 130 名、二次試験のみ (再受験者) が 75 名であった。

2. 試験結果

1) 成績

- ・ 平均点 : 82.1 点 (82.8 点)、最高点 : 98.3 点 (97.7 点)、最低点 : 53.7 点 (59.0 点)

() は 2018 年の成績

- ・ 血液型検査 (平均点 : 88.7 点、最高点 : 100 点、最低点 : 54 点)
- ・ 抗体検査 (平均点 : 73.0 点、最高点 : 100 点、最低点 : 8 点)
- ・ カラム検査 (平均点 : 84.6 点、最高点 : 99 点、最低点 : 58 点)

2) 合格者数

- ・ 合格者数 : 95 名 (合格率 46.3%、95 名/205 名)
- ・ 一次・二次両試験受験者 : 56 名 (合格率 43.0%、56 名/130 名)
- ・ 二次試験のみ受験者 : 39 名 (合格率 52.0%、39 名/75 名)

3. 試験概要と成績

1) 概要

認定輸血検査技師制度第 23 回二次試験 (実技試験) は 8 月 3 日 (土)、藤田医科大学 (愛知県) を会場で行われた。申請者 205 名で、欠席者がいないため、実受験者数は 205 名であった。これは昨年の二次試験よりやや増加であった。新規受験者が 91 名、再受験者が 39 名と昨年とほぼ同数であったが、二次試験のみの受験者が 75 名であり、昨年より約 30 名の増加であり、この増加分が受験者数の増加であった。

試験問題は血液型検査、抗体検査 (交差適合試験を含む)、カラム検査の 3

科目であり、試験時間も従来と変更がなかった。血液型検査は実技問題が 3 題と机上問題が 1 題の計 4 題であった。抗体検査は実技問題が 2 題、机上問題が 1 題の計 3 題であり、全ての受験者が時間内に課題を終了していた。カラム検査は実技問題が 2 題、机上問題が 3 題の計 5 題であった。各科目には必須問題が出題されていた。この様に、昨年度と同じ問題数であった。

2) 実技試験の講評

全科目の平均点は 82.1 点と高得点であり、血液型検査、抗体検査、カラム検査の平均点は各々 88.7 点、73.0 点、84.6 点とやや抗体検査の平均点が低い傾向が認められた。また、昨年の平均点 82.8 点と比較しても大差がなく、難易度は昨年度とほぼ同程度と考えられた。ただし、昨年度と同様に、二次試験の合格率が 46.3%と低迷していた。その要因として、必須問題の不正解者が 76 名 (37.1%) であった事が原因と考えられる。受験者はもう一度、基本的な手技、手順などを復習する必要があると考えられた。

血液型検査に対する試験では、平均点が 88.7 点と高得点であった。多くの受験者は判定解釈や対応など必要な知識を習得していると考えられた。ただし、血液型判定（再検査を含む全ての検査判定）などの必須問題での不正解者が 48 名 (23.4%) も認められた。血液型判定検査は輸血関連検査の中で、最も重要かつ基本であり、もう一度、検査手順方法も含めて復習して頂きたい。特に、血液型検査の判定保留に対する対応等について考えて頂く必要がある。

抗体検査に対する試験では、平均点が 73.0 点と血液型検査やカラム検査よりは 10 点ほど低いが、必須問題の不正解者が 35 名 (17.1%) と昨年より減少した。多くの受験者は判定解釈や対応など必要な知識を習得していると考えられた。ただし、不規則抗体同定検査で自己対照を実施していない受験者が散見され、検査手順を含めて復習して頂きたい。

カラム検査に対する試験では、血液型検査と同様、平均点が 84.6 点と高得点であり、また、必須問題の不正解者が 10 名 (4.9%) と少ない事から、受験者が勉強されていると考えられた。

3) 試験結果の通知表記

今回、血液型・抗体・カラムの全てにおいて及第点を取得し、必須問題が正解した受験者が合格となる。評価ランクに関しては、必須問題が正解の受験者に対して、一定の基準にて A~F に分け、絶対的評価とし、必須問題不

正解の受験者に対して、及第点の有無で G と H に分けた。各科目および総合で基準点以上かつ必須問題正解を A～C とし、合格者とした。必須問題正解で基準点未満を D～F に分け、さらに、必須問題は不正解で基準点以上を G、基準点未満を H とし、これらの受験者は不合格とした。

4. まとめ

今回、二次試験（実技試験）は昨年と比べ、合格率が同程度であった。ただし、必須問題の不正解で不合格になる受験者がやや減少し、基本的な手技が修得されていると考えた。

【3】 第 23 回認定輸血検査技師試験の総合結果

1. 受験者数

- ・ 申請者数は 351 名で資格審査不合格者が 2 名、辞退者が 5 名、欠席者が 2 名で、実受験者数は 342 名であった。
- ・ 実受験者 342 名の内、新規受験者は 155 名（45.3%）、再受験者が 112 名（32.7%）で、二次試験のみの受験者は 75 名であった。

2. 総合判定結果（一次・二次試験の総合判定結果）

- ・ 今回の試験を受験された受験者 342 名中、合格者数は 95 名（合格率：27.8%）であった。
- ・ 一次・二次両試験を受験された受験者 267 名中、合格者数は 56 名（合格率：21.0%）
- ・ 二次試験のみを受験された受験者 75 名中、合格者数は 39 名（合格率：52.0%）

3. 試験成績について

全体の合格率は 27.8%（95 名/342 名）で、昨年の 23.7%に比して、やや高い合格率であったが、30%未満の低い合格率であった。また、単一受験者の合格率（二次試験のみ；52.0%）比べ、両試験の受験者の合格率が 21.0%と不良であった。今回の試験で合格率が低率であった要因として、実技試験での必須問題の不正解によると考えられる。認定輸血検査技師を取得した技師は輸血検査におけるスペシャリストであり、輸血検査結果が患者生命予後に影響することを念頭に検査管理・業務・教育を遂行されている。その意味で、本試験は検査技師が資質に到達しているかを見極める試験と考える。今回、残念ながら合格に至らなかった受験者は、更なる研磨を積み、来年以降に合格される事を希望する。